平成２９年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

独自に開発した技術の組み合わせにより優良苗木の大量安定生産を実現

○氏名又は名称　林田　喜昭

○所　　在　　地　宮崎県児湯郡川南町

○出　　品　　財　技術・ほ場（苗ほ）

○受　賞　理　由

・地域の概要

川南町は、宮崎県のほぼ中央部に位置し、優れた自然景観に恵まれている。宮崎県は温暖、多照にして降雨量の多い気象条件でスギの成育に非常に適しており、スギ素材生産量が平成３年から26年連続で全国１位となるなど、国内最大のスギ生産拠点となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

林田氏は、昭和 54 年に家業の林田農園を引き継ぎ、スギ挿し木苗を中心に、抵抗性クロマツやクヌギの苗木生産を専業で行ってきた。本人夫婦と息子夫婦に加え４名の女性を通年雇用しており、スギの挿し付け本数約 37 万本は宮崎県の中でもトップクラスの規模である。得苗率（植付本数に対する出荷苗木本数の割合）も毎年安定して高く、平成 28 年は 84％で宮崎県平均の 72％を大きく上回っている。

・受賞者の特色

（１）小型挿し穂による育苗技術の確立

通常、1 本の母樹から確保できる穂木は 100 本程度であるが、林田氏は小型挿し穂を用いたスギの育苗技術を確立し、1 本の母樹から 300 本以上の穂木を確保することに成功している。

（２）Ｍスターコンテナ苗生産のパイオニア

将来の低コスト林業実現に向けて宮崎県林業技術センターが開発したコンテナ苗（Ｍスターコンテナ苗：培地を片面が波形になったシートで巻いて育成した苗）を苗木生産現場に展開するに当たり、実用化に向けたマニュアル作成に多大な役割を果たすとともに、育苗技術の高度化に向けた実績を積み上げている。

（３）技術の組み合わせによる大量生産と安定経営

挿し穂の挿し付け時期を露地苗用の春期とコンテナ苗用の秋期に分散させ、年間労務が平準化するよう調整することや、ハウスを活用して育苗期間を短縮させるなど独自に開発した技術の組み合わせによって、優良苗木を大量かつ安定的に供給することにより現場ニーズに応えている。

・普及性と今後の発展方向

苗木の善し悪しは林業にとって大変重要であるが、技術的・経営的工夫を行いつつ、地域の苗木供給全体の状況を踏まえて取り組んでいる林田氏の姿勢は、地域の生産者の模範となっている。

林田氏の取組は、主伐期を迎えた人工林の伐採後の再造林を進めるに当たり、今後ともその役割が大きくなっていくものと期待される。